

## 学校運営協議会 全日制部会 議事録

|     |           |
|-----|-----------|
| 校名  | 府立大手前高等学校 |
| 校長名 | 村田純子      |

|         |   |
|---------|---|
| 開催日時    | 令和 6 年 7 月 10 日(水) 14:00 ~ 15:30                      |
| 開催場所    | 大手前高校 校長室   |
| 出席者(委員) | 会長 野口 幸一 副会長 高橋 哲也<br>奥村 伸二 梶間 貴志 佐藤 恒二 古久保 俊嗣        |
| 出席者(学校) | 校長 村田 純子 教頭 吉田 憲司<br>首席 黒松 俊基 首席 森蔭 溪<br>研究開発部長 文田 憲行 |
| 傍聴者     |   |
| 協議資料    | R5学校経営計画 R6学校経営計画 学校パンフレット                            |
| 備考      |   |

## 議題等(次第順)

- ・校長挨拶
- ・委員紹介
- ・会長 副会長選出
- ・会長挨拶
- ・議題
- ①学校経営計画
- ②学校の取り組み紹介
- ③令和7年度使用教科図書選定

## 協議内容・承認事項等(意見の概要)

- ・会長 副会長選出  
委員の互選により、野口委員を会長に、高橋委員を副会長に選任した。

## 【議題①】学校経営計画

- R5学校経営計画と学校教育自己診断について確認した。
- R6学校経営計画と本年度の取り組み内容と評価の指標について確認した。

## 【議題②】学校の取り組み紹介

- 資料をもとに、以下の学校の取り組み内容を確認した。
- 学校パンフレット、GLHSの取組みに関する評価、集中セミナー講座、英国交流、マスセミナー、サイエンス探求、「大阪城の見える教室で学びませんか」、授業力向上プロジェクト「SGシステム」

## 【質問】

- (委員): 生徒にはスクール・ミッション、スクール・ポリシーを伝えているのか?
- (学校): 図などで受験生や在校生により分かりやすく伝えるための準備をしている
- (委員): 土日イベントで教員は疲弊されていないか
- (学校): 教員・生徒ともにやってよかったという感想。「大阪城の見える教室で学びませんか」は教員発案であり、教員の労力は少なく実施できる企画である。黒板に数式を書いて議論している生徒・中学生もおり、生徒が主体的に活躍できる場面が散見された。

## 【意見交換】

- ・ドリル式に先鋭化された勉強を続けると、社会一般のことが分からなくなるのではないか。概念的な話、入試に直接的に関係ないような歴史も子どもに学んでほしい
- ・数十年前はあまりなかった発表活動にとりくむ機会が多い。勉強とは自分でやっていくものであるという感覚を高校生の時期に身につけることが大切。発表活動等が自己学習力や自分で学習を切り開く力につながっているのではないか。正しい方向性を感じられた。
- ・生徒が学校で多くの活動に取り組んでいることに驚いた。改めて学校生活の忙しさを認識。しかし、示されているから取り組んでいる。指示されないと取り組まない生徒もいるのではないか。
- ・学校でできる活動が増えた。生徒発案企画など、自由さが増しているように感じた。
- ・旧学区制のもとで、通うことができる学校が限られていた。今後、GLHS10校間、大阪府下の高校間で生き残っていくためにどのような魅力を出していくのが重要ではないか。
- ・中学校では中学一年生をコロナ禍で3年間の学校生活の穴を補いながら指導している。ノートの取り方、規範意識などが十分に身につけていない生徒に丁寧な指導を行っている。
- ・大阪市の中学校では教科横断的な取り組み「総合的読解力」において、初見の文章を読み解くための力を身につけさせている。これは共通テスト等にもつながるのではないか。各教科の勉強を横につなぐ取り組みに力を入れている。

**【議題③】令和7年度使用教科図書選定**

学校運営協議会で確認の後、教育庁へ提出する。

- ・会長よりまとめ  
大手前高生だからこそ、偏狭な視野に立つのではなく、人権感覚を身につけ、ベーシックな部分を身につけてほしい。スクール・ミッションに立ち返って教育活動を振り返っていただきたい。